

学生会員の声



「必然のターニングポイント」

窪田 健太

(農学研究科生物資源学専攻1年)

私は迷っていた。当時、大学3年生になつたばかりの頃、自分の進路をどうすれば良いかわからなかつた。夏休みの中頃までずっと迷つていた。山大農学部の卒業生の大半は就職か大学院進学するため、とりあえずどちらか選ぼうと思い、いろいろ調べていた。しかし、調べれば調べるほど、自分はどうすれば良いのか、ますます分からなくなつていった。

同級生たちは進路の方向性を決めているのに自分は決められない。次第に進路も決められないと自分に自信もなくなつていった。

一方で、大学3年生になった頃から、私は「本」から情報をイ



くの誤解で、自身の無知が生んだものだつた。むしろ鶴岡は、自分の行動さえ伴えば、百パーセント素敵な経験が出来る場所だと個人的には思う。

私はこの夏休み、新型コロナの影響でどこにも行けないと嘆くことはせず、むしろ鶴岡を楽しめる良い機会だと考えて、炎天下の中、鶴岡市内を自転車で奔走した。夏といえば海だ。行った場所は、加茂水族館、由良海岸、湯野浜海岸。車がないからこそできる所業であり、夏休みにしかできないことだつた。加茂水族館に行つた日は、クラゲをただひたすら眺め、鶴岡の伝統的な漁の歴史に触れ、サクマスの季節限定定食をゆっくり楽しんだ後、海を眺めるという、最高の1日を送れた。だが逆に、湯野浜海岸の夕日を見た帰りには、土砂降りに遭つて全身ずぶぬれで帰つたり、水田周辺の街灯が少なく途中で何も見えなくなつたりなど、いい意味で様々な経験が出来た。由良海岸ではシーラスを拾い集めたり、波間をたどぼうと眺めたり、魚の影を追つたりして、自身

の年齢も忘れて楽しんだ。

私は自分で楽しみや遊びを生み出すのは、今後の人生をどちらかに繋がついくと考へる。しかもそれは場所を問わないから、自分次第でどこでも楽しくなるのだ。そして個人的には、鶴岡にはそれをより可能にしてくれる力があると思つてゐる。つまり、鶴岡は自分が湧いてくる、というように、解できる能力を学ぶことが出来る。知識を知ると、それらを生かしていく場所、樹木の形などを通じて、森林の動態や遷移などを理解したり、昔ながらの知恵だったり、この地域で食べられる美味しさのものだつたり。知れば知るほど、ますます興味が湧いてきて、樂しまれる。そして、それらと共に学べる大切な仲間が、ここにはたくさんいる。樂しみを糧に、遊びを楽しみに、鶴岡というこの場所を、もつともと楽しんでいくのが、今の私の楽しみである。

「会員の声」募集!!

学生時代の思い出や近況をぜひお寄せください。
掲載ご希望の方は、下記鶴窓会事務局までご連絡ください。

山形大学農学部 鶴窓会事務局
TEL/FAX 0235-28-2897 (平日9:00~13:00)
E-mail kakusoukai@kdp.biglobe.ne.jp



社会への貢献が私たちのテーマです。

私達 株式会社 理研分析センターは、「環境は次の世代からの預かり物である」との観点に立ち「分析技術を通して社会に貢献する」ことをテーマとして積極的に活動します。

特定計量証明(ダイオキシン類)・蓄積衛生検査所
環境計量証明(大気・水質・土壤汚染対策・臭気・食品・廃棄物)
ISO17025認定(化学試験・食品・医薬品試験・生物化学試験・放射能)
飲料水・作業環境測定・木質ペレット分析・アスベスト分析・土壤成分分析

株式会社 理研分析センター
0235-24-4427

インプットするようになった。本は先人たちが生涯をかけて悩み、考え抜いてきた画期的な情報を教えてくれた。しばらくして、私は読書中に「メモ書き」と出会つた。メモ書きは必要なことをメモするだけではなく、自分の思考を整理するのに役立つ。今では月にノート3、4冊は「メモ書き」するようになつた。

大学3年の夏休みが終わる頃、自分の思考をすべて紙に書き出し、自分の進路をどうしたいのかを考えた。そこからは早かつた。

それでも出てくるはずがなかつた。

そして、私は大学院に進学する決意ができた。これは実績ではないが、自分の人生を自分で決定している。その感覚が自信になつた。

他にもターニングポイントはある。

私は大学の卓球部に所属して

いる。3年生の頃に団体戦で入賞し、賞品のりんごを分け合つたのは良い思い出だ。4年生の頃、秋田県まで大会に行つて優勝したのも嬉しかつた。もちろんメンバーのおかげだつた。しかし、「本」と「メモ書き」を使い、自分なりにプレーすることができ、楽しかつた。

普段の研究でも「メモ書き」は多用している。私は学部4年生の時に国際学会に参加した。ここで、なんと学会賞をいただくことができた。言うまでもなく、

研究においては、3年生の11月に研究テーマが決まり、先輩の下

で様々なことを教わつた。講義が

難しさがあり、高校時代に見て

きた世界と研究室で行う研究

活動は異なつてゐた。うまくいかないこともあるが、何か一つでも

きたときはやはり嬉しい。

3年生の3月、これから卒業研

究を本格的に始めていこうとし

たけれど、鶴岡に住んで2年半が過ぎ、環境や気候にも大分慣れたと思う。私が所属するバイオマス資源学研究室を希望した。研究室に配属されてからこれまでの生活とは違ひ、毎日が新鮮だつた。私が研究室に配属されたタイミングでタイからバイオマスの研究をしていた私は、バイオマス資源学に興味を持ち、バイオマス資源学研究室を希望した。研究室に配属されてから

科学コースでは、3年次後期から

研究室に配属される。高校時代にSSH(スーパー・サイエンスハイスクール)の活動の一環で木質バイオマスの研究をしていた私は、

渡辺先生や先輩方のおかげだつた。それでも、「メモ書き」を駆使した自分なりの発表ができる満足だつた。

「努力の仕方をインプットして自分なりに思考を整理する」を行つて、これが大切だと確信した。難しい挑戦に果敢に挑み、自信を持つようになった。しかし私はまだ未熟だ。今後も精進したい。

最後に、これまで私は周りの人たちに助けてもらつた。私に

関わってくれた人たちには本当に感謝している。今後は恩返しする気持ちで頑張りたい。

自分なりに思考を整理する」を駆使した自分なりの発表ができる満足だつた。

渡辺先生や先輩方のおかげだつた。それでも、「メモ書き」を駆使した自分なりの発表ができる満足だつた。

「努力の仕方をインプットして

自分なりに思考を整理する」を行つて、これが大切だと確信した。難しい挑戦に果敢に挑み、自信を持つようになった。しかし私はまだ未熟だ。今後も精進したい。

最後に、これまで私は周りの人たちに助けてもらつた。私に

関わってくれた人たちには本当に感謝している。今後は恩返しする気持ちで頑張りたい。

自分なりに思考を整理する」を駆使した自分なりの発表ができる満足だつた。

渡辺先生や先輩方のおかげだつた。それでも、「メモ書き」を駆使した自分なりの発表ができる満足だつた。

「努力の仕方をインプットして

自分なりに思考を整理する」を行つて、これが大切だと確信した。難しい挑戦に果敢に挑み、自信を持つようになった。しかし私はまだ未熟だ。今後も精進したい。

自分なりに思考を整理する」を駆使した自分なりの